



HTTPS セキュリティ証明書の生成

Active IQ Unified Manager 9.9

NetApp
January 31, 2025

目次

HTTPS セキュリティ証明書の生成	1
作業を開始する前に	1
このタスクについて	1
手順	1
完了後	2
Unified Manager 仮想マシンを再起動しています	2

HTTPS セキュリティ証明書の生成

Active IQ Unified Manager を初めてインストールするときは、デフォルトの HTTPS 証明書がインストールされます。既存の証明書を置き換える新しい HTTPS セキュリティ証明書を生成することがあります。

作業を開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

このタスクについて

証明書を再生成する理由はいくつかあります。たとえば、識別名（DN）の値を大きくする場合や、キーのサイズを大きくする場合や、有効期限を延長する場合、現在の証明書の有効期限が切れている場合などです。

Unified Manager Web UI にアクセスできない場合は、メンテナンスコンソールを使用して同じ値で HTTPS 証明書を再生成できます。証明書を再生成する際には、キーのサイズと有効期間を定義できます。を使用する場合 `Reset Server Certificate` メンテナンスコンソールからオプションを選択すると、397日間有効な新しいHTTPS証明書が作成されます。この証明書には、サイズが 2048 ビットの RSA キーがあります。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、* General * > * HTTPS Certificate * をクリックします。
2. [* HTTPS 証明書の再生成 *] をクリックします。

HTTPS 証明書の再生成ダイアログボックスが表示されます。

3. 証明書を生成する方法に応じて、次のいずれかのオプションを選択します。

状況	手順
現在の値で証明書を再生成します	[現在の証明書属性を使用して再生成（ Regenerate using current Certificate Attributes ）] オプションをクリックし

状況	手順
別の値を使用して証明書を作成します	<p data-bbox="407 157 1198 191">[現在の証明書属性を更新する*] オプションをクリックします。</p> <p data-bbox="407 226 1487 430">新しい値を入力しない場合は、[共通名]フィールドと[代替名]フィールドに既存の証明書の値が使用されます。「共通名」は、ホストの FQDN に設定する必要があります。その他のフィールドには値は必要ありませんが、電子メール、会社、部署、証明書に値を入力する場合は、[市区町村]、[都道府県]、および[国]を選択します。使用可能なキー・サイズ（キー・アルゴリズムは「RSA」）と有効期間から選択することもできます。</p> <div data-bbox="440 464 1487 1018" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <p data-bbox="440 722 493 779" style="text-align: center;"></p> <ul data-bbox="581 478 1406 569" style="list-style-type: none"> • キーサイズに指定できる値は、です 2048、3072 および 4096。 • 有効期間は、1日～最大 36500 日です。 <p data-bbox="602 604 1446 772">有効期間は 36500 日ですが、有効期間は 397 日以内または 13 か月以内にするをお勧めします。397 日以上有効期間を選択し、この証明書の CSR をエクスポートして既知の CA によって署名された証明書を取得する予定であるため、CA から返された署名済み証明書の有効性は 397 日に減少します。</p> <ul data-bbox="581 814 1446 1018" style="list-style-type: none"> • 証明書の代替名フィールドからローカル識別情報を削除する場合は、[ローカル識別情報を除外する] チェックボックス（例：localhost\）をオンにします。このチェックボックスをオンにすると、[代替名]フィールドに入力したフィールドのみが使用されます。空白のままにすると、結果の証明書に代替名フィールドがまったく表示されなくなります。 </div>

1. [はい] をクリックして証明書を再生成します。
2. 新しい証明書を有効にするために Unified Manager サーバを再起動します。

完了後

HTTPS 証明書を表示して新しい証明書の情報を確認します。

Unified Manager 仮想マシンを再起動しています

仮想マシンは、Unified Manager のメンテナンスコンソールから再起動できます。新しいセキュリティ証明書を作成した場合や仮想マシンで問題が発生した場合、仮想マシンの再起動が必要になります。

作業を開始する前に

仮想アプライアンスの電源をオンにします。

メンテナンスコンソールにメンテナンスユーザとしてログインします。

このタスクについて

[ゲストの再起動]オプションを使用して、vSphereから仮想マシンを再起動することもできます。詳細については、VMware のドキュメントを参照してください。

手順

1. メンテナンスコンソールにアクセスします
2. システム構成 > 仮想マシンの再起動 * を選択します。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。